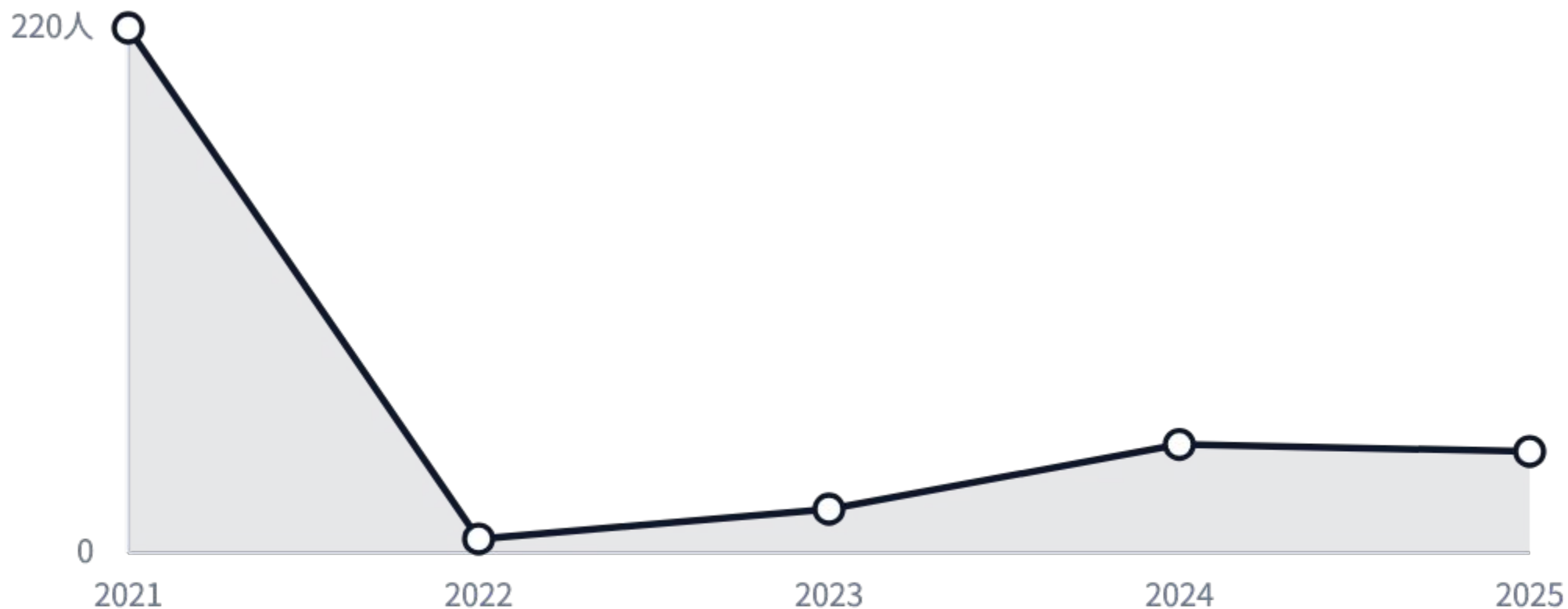

教職員不祥事根絶のための研修

「不祥事ゼロ」を目指して：信頼される学校づくり

不祥事処分人数の推移(過去 5年間)



2025年度処分者数：24人（事故者本人）+20人（管理責任）=計44人
「免職」処分は9人と前年度から倍増しており、事態は深刻です。

| 2025年度 発生した主な不祥事事例

区分	事案の概要	処分内容
飲酒運転	飲酒后、代車が来ないことを理由に深夜に自車を運転。	免職
盗撮	学校の更衣室等において盗撮、記録媒体に保存・所持。	免職
わいせつ	車内や校内での児童生徒への接触、抱きつく等の行為。	免職
公金着服	生徒会費や徴収金から、数百万円～1,300万円を着服。	免職
体罰	児童生徒の頭部を拳や手のひらで叩く、蹴る等の行為。	減給

重点対策：4つの不祥事類型をゼロに

飲酒運転

「根絶に向けた確認書」の徴取（4月中）および校内研修の実施。



体罰

ネット目安箱のアイコン表示。動画研修によるアンガーマネジメント習得。



盗撮

管理職による不審なカメラの定期点検（毎月）。整理整頓の徹底。



わいせつ

防犯カメラの設置推進。児童生徒と接する際のルールの厳格化。

飲酒運転・体罰防止の留意点

1. 飲酒運転の防止

- 私的な飲酒機会での発生が多い。
- 20代、勤務年数の短い若手への注意喚起。
- 「代行が来ない」は一切の言い訳にならない。
- 同席者による相互チェックの徹底。

2. 体罰の防止

- 40代以上の男性教員による発生が目立つ。
- 人権意識の向上とアンガーマネジメント。
- 「指導の一環」という誤った認識の排除。
- 教員同士で不適切な指導を注意し合える環境。

わいせつ・性暴力の根絶ルール



面談の透明性確保

複数名で対応。密室を避け、外から見える環境（入口を開ける等）で行う。



SNS連絡の禁止

私的なやり取りは厳禁。校長承認の公的ツールのみを使用。



兆候の早期察知

特定生徒の特別扱い、贈り物、必要以上の身体接触、仲間のような振る舞いを注視。

盗撮防止と公金取扱いの厳格化



不審なカメラの点検

教室、トイレ、更衣室、空き教室等の定期点検（毎月）を実施し、設置しにくい環境を作る。



環境整備の徹底

備品管理や教室内の整理整頓を怠らず、死角や不自然な場所を作らない。



公金管理のルール

現金保管を原則禁止。事務処理は文書による決裁を徹底する。



ダブルチェック

文書だけでなく通帳との突合を行い、管理職による実質的なチェックを機能させる。

「風通しの良い職場」が不祥事を防ぐ

心理的安全性の高い環境づくり

不祥事の早期発見と防止には、些細な違和感を共有できる「心理的安全性」が不可欠です。若手もベテランも意見を言い合える、フラットな人間関係を構築しましょう。



日常的なコミュニケーション

挨拶・「意識的な声かけ」の励行により、話しやすい雰囲気を作ります。



正直な報告文化

不安や失敗を隠さず、速やかに報告・相談できる文化を醸成します。



「見える化」による防止

業務プロセスを可視化し、孤立を防ぐことで健全な環境を維持します。